

会議結果報告書

会議の名称	令和3年度第6回札幌市子ども・子育て会議児童福祉部会
日時・場所	令和4年1月28日（金）16：00～17：15 子ども未来局大会議室（WEB会議）
出席委員 8名/9名中	松本 伊智朗（部会長）、稲生 義裕、伊林 潤、大場 信一、北川 聡子、高橋 司、藤原 里佐、箭原 恭子（敬称略）
傍聴者数	2名

議事等	概要
1. 母子生活支援施設整備計画の承認について	○審議概要 事務局より、下記資料の説明を行った。 ・資料1 母子生活支援施設整備計画の承認について ○主な委員質問・意見 ・（委員）国庫補助に向けて協議する際の補強材料として、指導監査が実施監査あるいは文書監査であったのかにも触れながら、評価内容などを説明するとよいと思う。 ・（委員）母子を支えることが非常に重要になってくと思うので、母子保健の担当部署、児童相談所等と連携を強めて、支えてほしい。 ・（委員）今回の施設では、母子室がすべて 33.48 m²で間取りが同じである。母子生活支援施設の設置基準上、多子世帯のような世帯員の多い世帯を考慮した間取りの異なる部屋を設置することはできなかったのか。 →（大館調整担当係長）法令上の母子室の基準は、30 m²以上であるので、設置基準上では、間取りの異なる部屋の設置が可能である。間取りが同じ母子室の施設を建築する場合、一般的に整備費用を抑えることができるという利点がある。資金面に限界があること、国との交付金に係る協議を控えていることから、今回の整備で間取りの異なる部屋の設置は難しい。今後検討する施設では、多子世帯への対応を考慮して検討を進めていく。 ・（委員）今後機能強化が必要になった場合を考慮して、面積に余裕を持たせていると説明を受けたが、機能強化とはどのようなものなのか。また、機能強化が必要となった場合に、それにどう対応しようと現時点で考えているのか。 →（大館調整担当係長）現時点では、産前産後母子支援のた

	めに新たに居室が必要と考えている。また、機能強化が必要となった場合については、運営法人と話し合い、新施設の1階にある学習室、集会室を一つにまとめ、集会室のあった場所に新たに母子向けの部屋を整備することを考えている。 ・（委員）既に実施されているのかもしれないが、DVを受けていた方への治療的な関わり、心理士等によるお母さんや児童のケアなどの機能があると、よりよい役割が果たせると思う。 ・（委員）資料の内容は、今ある機能を維持するための建て替えという考え方と思われる。児童福祉法の改正も含め、子ども家族福祉を取り巻く環境がこの数年で大きく変わりつつあるし、母子生活支援施設の全国組織でも御意見をまとめている。今回の整備計画は、そういったことを踏まえて練られたものに見えない。次回の建て替えの際には、どういう形を目指すのかという提案をしてほしい。また、提案時期についても、図面を作る前の段階での意見交換を行えるとよいので、進め方も含めて検討してほしい。 ・（委員）もいわ荘については、建て替えていただきたいと思う。他の母子生活支援施設の話になるが、公設のしらぎく荘は、築48年を経過し、老朽化が進んでおり、施設の限界がきていると感じている。今後、しらぎく荘をどうしていくのかについてもきちんと検討してほしい。 ・（委員）単に建て替えの議論ではなく、札幌市の母子福祉、女性支援をどうしていくのかをという中に積極的に位置付けると、生活全体を支える支援の重要性について、母子生活支援施設の関連でもいろいろな構想が全国的に議論されている、今回よりもやや早い段階で議論できると生産的になると思う。 ・（江積子育て支援課長）母子生活支援施設を取り巻く環境が大きく変わっている状況にあるので、在り方について庁内で検討し、検討結果について、令和4年度の児童福祉部会で審議いただきたと考えている。それぞれの施設については、老朽化の進行を含め、どう対応していくかをあり方検討の中であわせて検討していく。 ○承認
--	--

（議事概要について発言者内容確認済み）